

ボランティア活動時の感染症予防のために

＜サロン／相談会＞

サロン活動は、被災者の居場所を作ったり、定期的な外出の機会や人と会話する機会を増やして潜在化しがちな課題を把握するためにも大切な活動の 1 つです。よって、感染リスクは高い取組ではあるものの、地域の感染状況に注意を払いつつ、感染対策を行った上で、できる限り継続することが望まれます。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
サロン/相談会	高	高	高	高	高

＜活動に入る前＞

○ 被災地内の感染状況に細心の注意を払う

- 個人の感染対策をどれだけ努力しても感染リスクをゼロにする事はできません。被災者の安心を損なわないよう、最新の感染状況や地域の災害ボランティアセンターが出している「ボランティア受援方針」を参考にして、慎重に開催/中止の判断をしましょう。

○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。
- 可能な場合は、参加者にも事前に健康状態をセルフチェックしてもらうよう伝えましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

(参考) 新型コロナウイルス感染症の主な症状

- ・ 37.5 度以上の発熱
- ・ 息苦しさ
- ・ 強い倦怠感
- ・ 継続的な咳
- ・ 継続的なのどの痛み
- ・ 味覚/臭覚の異常

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう

- ・ 下痢
- ・ 日頃と異なる体調不良など

○ オンラインでの開催や併用も検討する

- 参加者も含めた完全なオンライン開催や、支援者の一部（例えば傾聴や各種相談などの担当者）をオンラインにする事が可能か、検討しましょう。

○ 抗原定性検査の実施も検討する

- 被災地内の医療機関が切迫している、重症化リスクの高い方が多く参加する等の場合は、当日に抗原定性検査を行って感染リスクを下げることも検討しましょう。

○ 会場の確認と感染対策の事前準備

- 開催場所を事前に確認し、会場の感染予防対策ガイドラインがあれば確認するとともに、参加者が間合いを確保できるか、屋内の場合は換気が充分にできるかを確認しましょう。可能なら入口と出口を分けましょう。
- 事前に消毒しておくべき場所や物を確認しましょう。
 - ・机 ・イス ・ドアノブ ・手すり ・エレベーター ・トイレ
 - ・手洗い場(蛇口) ・電灯のスイッチ ・マイク 等
- テレビのリモコンや本、遊具等、サロン/相談会では使わない物は事前に撤去しておく事でリスクを下げる事ができます。

○ 準備物を確認する

- 活動の必携品
 - ・受付名簿 ・筆記具 ・チラシ等配付資料 ・サロンで使用する物品
- 感染予防対策品
 - ・不織布マスク ・アルコール手指消毒液 ・アルコールウェットティッシュ
 - ・非接触型検温器 ・ゴミ袋 ・ゴミ箱(ふた付) ・手袋・ペーパータオル
 - ・家庭用洗剤

<活動中>

○ 会場の準備

- 参加者が触る場所は事前に消毒しましょう。清掃時はマスクと手袋をして、

終わったら破棄しましょう。

(参考資料) 経済産業省>ご家庭にある洗剤を使って身近な物の消毒をしましょう」

<https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf>

- 座席の間隔は 2m 以上（最低でも 1 m）あけて座るよう準備しましょう。
 - ・グループの場合、対面にならない様に席を設置しましょう。
- 受付の前にアルコール手指消毒と検温できる場所を設置しましょう。
- 受付は密集しやすいので広いスペースがとれる場所に設置しましょう。
- 換気を確保しましょう。(常時換気がベスト。少なくとも 30 分毎に 5 分換気)
- 動線を確保して不用意な密が生じないようにしましょう。
- 配付物などは事前に席に置いておくことで接触機会を減らす事ができます。
- 感染予防対策を促すチラシなどを会場内に掲示しましょう。
- 特に夏期の場合、マスクにより熱中症のリスクが高くなるので、マスクを外して休憩できるような換気の良い休憩場所を確保しましょう。

○ プログラムの工夫

- サロン/相談会のプログラムはできるだけ一人でできるものにしましょう。
- 道具を共有するプログラムはできるだけ避けましょう。マイクを回す場合は都度アルコールウェットティッシュなどで拭き掃除をしましょう。
- カラオケ等大声の発声を伴うものや、息切れする様な運動は避けましょう。
- できるだけ席の移動は避けましょう。
- 飲食は避けましょう。どうしても飲食を伴う場合は個包装された物を使い、食べる際におしゃべりしない様に工夫をしましょう。(映画鑑賞中に配る 等)
- 会話をする場合は席の距離を 2m(最低でも 1m)離せるよう工夫しましょう。
- 受付時や終了時、休憩時、室内外の移動など、参加者の移動が伴うときに密になりやすいので順番に移動を促すなど工夫しましょう。
- できるだけ事前申込制にしましょう。参加人数が多い場合は時間を分けるなど工夫しましょう。当日受付の場合は、会場の参加人数に応じて入場を調整で

きるよう、待機場所や入場前の案内なども検討しましょう。

○ 受付での対応

- 非接触式検温器で検温すると共に、体調の異変がないか確認しましょう。
発熱が認められる場合、体調に異常を訴える場合は参加を見合わせ、必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。
- マスクの着用をお願いし、無い方は配付しましょう。
※乳幼児や自閉症の方等、何らかの理由でマスクを付ける事ができない方もいます。事情を丁寧に伺った上で、事業の趣旨に沿って対応しましょう。
・別室で対応する ・オンラインで対応する ・そのまま参加してもらう 等
(WHO では「5 歳以下のマスクは不要」、厚生労働省では「2 歳未満のマスク着用を推奨しない」としています)
- 金銭の受け渡しが必要な場合、直接の手渡しは避け、トレイなどを利用しましょう。受付スタッフがお金に触れた場合はアルコール手指消毒をしてから次の方の対応をしましょう。
- 名簿はチェック式にするなどスタッフ側で対応できるように工夫しましょう。参加者に記入してもらう場合は、書く前のアルコール手指消毒、書いた後のアルコール手指消毒を促しましょう。

<活動後>

○ 会場の消毒・清掃

- 使い終わった会場は消毒、清掃してから返却しましょう。
- 製造時はマスクと手袋をして、終わったら破棄しましょう。
- 活動で出たごみをいれたゴミ袋は口を閉じて持ち帰り、地元の分別ルールに沿って処分しましょう。